

システム企画研修 上野則男のメルマガ2011年11月号です

各位

早いものです。もう11月です。
そうしてすっかり秋ですね。

野田政権になって、毎日いらいらすることは少なくなりました。
早く国論をまとめて
自信のある政策実行をしていただきたいものです。
今のところは期待以上の働きをしている「どじょう」さん
と言えるのではないのでしょうか。
TPPの捌きが見所です。

今月も同じセリフです。
何とか早く日本経済全体が前向きに進んでいただきたいと
強く願っています。

今月は9編です。
特に目玉はございません。
それぞれ「おもしろい」のではないのでしょうか。

以下の要約をご覧ください、
ご関心あるものをお読みください。

なお、なかなか皆様にコメントをいただけませんので、
先月から、今はやりの「いいね」ボタンをブログに追加しました。
クリックをお待ちしています。
よろしく願いいたします。

★—————No. 38 2011年11月—————★

以下は作成順です。ブログでは逆の順序です。

■ TPPお化け
何事も功罪が交錯し、一方的という事象は多くありません。
弊害・副作用はつきものです。
賛否両論は、国のレベル・政治の案件では必定です。
しかし、TPP問題は久々の紛糾案件です。
これについて、どう考えればよいのかを
私なりに整理しました。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_24.html

■ 「日本人の9割に英語はいらない」
これは、日本マイクロソフトの社長をされた成毛真さんの著書ですが、
びっくりする内容です。
ぜひ、この紹介文をお読みください。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_6306.html

■ 指導・しつけの原理 養護施設の教育原理から学ぶ
105歳で現役バリバリでご活躍の方の「教育訓」です。
動物の本能に近いところに訴える方法で、
私は孫娘の「知育」に応用しています。
ビジネスにも応用できます。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_2464.html

■ 日本企業の針路 野中先生の暗黙知は？
ご存じ「暗黙知」「現場力」の大先生のご託宣集の紹介です。
「なるほど、なるほど」ですが、敢えて突っ込んでみました。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_31.html

■ トップの強い意志と現場力
現場力だけでは、改革は進まないということ、
二つの事例で解説いたしました。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_9709.html

■ 西大井駅近く横須賀線事故の対応

我が家の近くの事故にからんで「一言」です。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_5155.html

■ 禿頭は男性的？

患部の強い意志の紹介？です。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_5755.html

■「上野則男のブログ」ランキング

アクセスランキングが出ていましたのでご紹介します。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_7688.html

■私の趣味「銀杏採り」のご紹介

10年くらい更新していたものを公開することにしました。

ギンナンに関心のない方には全く意味のないレポートです。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_6221.html

当メルマガは、

以下の方法でお送りいたしております。

このメール本文では、「上野則男のメルマガ」のテーマ名だけをお知らせします。

内容は、以下のいずれかの方法でご覧いただくことができます。

1. 月刊の「上野則男のメルマガ」

このURLで、バックナンバーを含めてご覧いただけます。

<http://www.newspt.co.jp/data/mailmaga/mgbk.html>

ブログにアクセスできない方は、こちらでご覧ください。

2. 随時更新される「上野則男のブログ」

総括の入り口のURLは以下のとおりです。

<http://uenorio.blogspot.com/>

個別のテーマのURLは、下のテーマ一覧のところに表示しています。

3. 携帯で「上野則男のブログ」をご覧いただくこともできます。

携帯用のQRコードが、上記の「上野則男のメルマガ」の冒頭部、

または「上野則男のブログ」の冒頭部右に示されています。

ご利用ください。

ご意見等につきましては、ブログへの書き込み（なるべくこれをお願いします）か、当メールへの返信でお願いいたします。

★—————No. 38 2011年11月—★

■TPPお化け

何事も功罪が交錯し、一方的という事象は多くありません。

弊害・副作用はつきものです。

賛否両論は、国のレベル・政治の案件では必定です。

しかし、TPP問題は久々の紛糾案件です。

これについて、どう考えればよいのかを

私なりに整理しました。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_24.html

TPP（環太平洋経済連携協定）は、「米国を含む環太平洋地域で貿易や投資を自由化する新ルール。

市場開放の対象は関税だけでなく、検疫、技術基準、知的財産権、政府調達など24分野にわたる」

（10月23日日経新聞）なのですが、この「交渉に」加わるかどうかで、国会ではなく民主党内でもめています。

「TPPお化け」というのは、実態の分からない怖いものということでしょうか。

主にTPP反対派が使っている言葉のようです。

私は、10月23日のフジテレビ「新報道2001」を見て、もめている本質が分かりました。

この番組は、非常によいタイミングでのよい報道でした。

以下に、この問題の「初心者」向けの解説をさせていただきます。

まず、現時点の問題は、「交渉に加わるかどうか」であって、「加盟するかどうか」ではありません。

反対派の主張はこうです。TPPはアメリカ主導なので、アメリカの都合のよいように押し切られてしまう。そうすれば、日本の農業は壊滅だ。

医療保険だって、民間の保険業者が入ってきて日本の健康保険制度はガタガタになってしまう。

アメリカの主張が通ることは、

来年1月発効を目指す米韓自由貿易協定で韓国の農業が壊滅しそうになっている例で分かる。

反対派の主張は一言で言えば、既に枠組みは決まっています、交渉参加＝悪条件を呑まされる、という強迫観念に立っているという感じです。

呑まされるという判断は、過去の日米交渉の経験的判断に基づいています。

ですが反対派の本音は、農業を守りたい、農業関係者の票を大事にしたい、ということでしょう。

これに対して、賛成派の主張はこうです。

TPPは9カ国（+日本）が協議する場である。一方的にアメリカの主張が通るわけではない。

日本は受け身の姿勢ではなく、積極的に参加して日本に有利な条件を作り出せばよい。参加しなければ、有利な条件を作り出すことはできない。

アメリカが自国の利益（または一部の産業の利益）を狙って交渉に臨んでくるのはある面で当然だ。

しかしそのアメリカには、同じ状況・意見・利害関係を持つ国と組んで対抗すればよい。それが、2国間交渉と異なる点だ。強い交渉力を持てばよいのだ。

失うものより、得るものが大きい、初めから負けると思うな、前向きに自信を持って臨め、という判断です。

当番組では以下のような事例が紹介されました。

日米の貿易交渉で牛肉の自由化をした際に、日本政府は、規模を10倍にすればよいと補助制度を作った。それに乗った事業者は、規模を拡大したが輸入牛肉の値段には太刀打ちできず育牛事業は完敗だった、仲間の何人かは自殺した、というのです。

かたやで、イチゴやサクランボ、米沢牛を輸出して繁栄している山形の事業者も紹介されました。

このことはきわめて示唆に富む事例紹介です。価格競争の世界では、規模の差がある場合は小さい方は太刀打ちできません。

一般的な薄型テレビでは、ソニーでもパナソニックでも黒字にできないのです。日本の一般的な農畜産業は、アメリカや豪州の農畜産業に敵うわけがありません。

規模の小さな事業者は、専門特化して生きるのです。量ではなく質です。日本人はそれが得意のはずです。

TPPの土俵でも、日本は、得意分野を開発してそこに集中する、各国とも自分の得意分野を強化して、そのTPP参加企業の市場をお客様にすればよいのです。それが、このような経済圏創出のメリットではないですか。

そのために、弱い分野は撤退しなければなりません。半端な規模拡大を支援するのではなく、山形の事業者のような、その地域の自然環境に合致した、あるいは日本の得意分野に特化する転業を支援すべきです。

どうにもならない場合は、失業保険的な補償をすることになるでしょう。その原資は、日本の強い産業の収益（からの税）で賄うのです。

大ざっぱに言えば、TPP反対派はネガティブ思考で、TPP賛成派はポジティブ思考だと言えます。守りの姿勢か攻めの姿勢かという見方もできるでしょう。

この問題を検討する上で、大事な視点（「目的・ねらい」）は、何が国民の生活にとって好ましいのか、です。

就業人口の3%しかない農業従事者や、特定の産業の従事者にとって好ましいかどうか、であってはなりません。

国民にとってよいことであればマイナスの影響を受ける人たちに適切な補償をすることに国民は反対しないでしょう。

アメリカの言いなりにならない強い交渉力を期待したいですね。でも誰がその交渉を担当するのでしょうか。そういう方はおられるのでしょうか？

これが反対派と賛成派の現実論かもしれません。

■ 「日本人の9割に英語はわからない」

これは、日本マイクロソフトの社長をされた成毛眞さんの著書ですが、びっくりする内容です。ぜひ、この紹介文をお読みください。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_6306.html

これは、今年の9月に出た成毛眞氏の書かれた書名です。
成毛氏は、日本マイクロソフトの日本法人社長を1991年から9年間務められた方です。
英語が不要なわけがないのです。

てっきり、小学校からの英語教育等の批判書かと思って読んでみました。

ところがビックリでした。

英語教育不要論ではなく、なぜ9割の人には不要かという根拠を示した後で、1割の人に対する極めて実践的で有効な英語習得術も展開しているのです。

それだけではありません。
以下のようなテーマで私の遥かに上に行く社会批判をしています。
ほとんどの項目でデータ等の裏付けを持って主張されています。

ぜひ皆様に一読をお勧めします。

何のために英語を勉強するのか
創造力のない人ほど英語を勉強する
英語を話せなくても罪悪感を抱くな
「英語ができない日本人」というデータに騙されるな
早期英語教育は無意味である
自信がないなら通訳を雇えばいい

英語を社内公用語にしてはいけない
TOEICを盲信するな
海外で成功したいなら自分の武器を磨け
(英語だけできたってダメ、日本のことを勉強しろ)
日本の英語教育は日本人をダメにする

以下は、「第3章 本当の学問をしよう」の内容で圧巻です。

大人の学問をしよう
真の教養とは何か
日本人はなぜ思考を磨けないのか
(日本の教育は知識偏重で考えさせていない)

この項の中の一節をご紹介します。
「ここまで言うか!」と喝さいです。

日本の政治家を見ている限り、
1ミリも哲学を持ち合わせていないのは明白だが、
欧米の政治家は確固たる理念を持っている人が多い。

同じく第3章の「日本が抱える七つの大罪」は、
以下の内容です。

元は、マハトマ・ガンジーさんの言葉のようですが、
以下の7項目は
今の日本にすべて当てはまると言われるのです。
まったくそのとおりです。

原則なき政治
道徳なき商業
労働なき富
人格なき学識
人間性なき科学
良心なき快樂
献身なき信仰

ガンジーさんは、やはりとてつもなく偉い方ですね。

それでは、最後に成毛流英語習得術のさわりを
ご紹介します。

日常英会話はフレーズ（一文）で覚える
話すよりヒアリング力の向上が有効
身の回りの単語を片っ端から覚える
日常生活に必要な知識を増やす

発音を覚える部分が圧巻でした。
私も、「何のために英語が必要か」は不問にして
ジョギングの時に練習しています。

A B C D E F G — X Y Z を繰り返し発音する
（発音記号を意識して一音ずつ。半年くらいやった）
難しい単語の発音を繰り返す
（P a r a l l e l で半月、E n t h u s i a s t i c など）

実践して成果を上げた方のご意見は
説得力があります。

ご友人・お子様などにお勧めされたいかがですか。

■指導・しつけの原理 養護施設の教育原理から学ぶ
105歳で現役バリバリでご活躍の方の「教育訓」です。
動物の本能に近いところに訴える方法で、
私は孫娘の「知育」に応用しています。
ビジネスにも応用できます。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_2464.html

致知11月号で、
105歳で養護施設「しいのみ学園」の現役理事長
をしてられる鼻地三郎さんが書いておられる
「しいのみ学園で生まれた10大教育原理」
をご紹介します。

鼻地三郎さんは、105歳で仕事の前線に活躍されて
おられることも脅威ですが、
もっともっとすごい面をお持ちです。

お若い頃に、相次いでお子様2人が脳障害を起こされる
逆境に遭われています。
その時、このことを前向きな試練と捉えられて
養護施設の運営にまで到達されたのです。
本当に頭の下がることです。

本稿では、鼻地三郎さんが
長年のご苦勞の結果で獲得された原理を
「幼児の指導」と
「ビジネスでの指導」に援用してみました。

この10大教育原理は、言葉はよくないですが、
知恵遅れの方を活性化するノウハウです。

このノウハウは、
今、私の私的時間の多くを占めている
1歳の孫娘の知的育成に
ぴったり当てはまると思いました。

知的育成と言うと格好いいのですが、
どうやって孫の関心を引き出し、
爺ちゃんとの時間が楽しい、と思ってもらえるか、
ということです。

小さなお子様がおられる方は参考になさってください。

1. 活動の原理（揺さぶる。刺激を与えて反応させる）
2. 興味の原理（あら、何かしら、という興味を引き出す）
3. 許容の原理（叱らない教育）
4. 賞賛の原理（誉めて伸ばす）
5. 自信の原理（達成の喜びを経験させる）
6. 予見の原理（先を見る）
7. 変化の原理（マンネリズム化を避ける）
8. 集中の原理（ここぞという時にはやり遂げさせる）

9. 共在の原理（先生と子供がいつも同じ空間にいる）
10. 体感の原理（スキンシップ）

「活動の原理」

赤ん坊は、
揺さぶったり動かしたりすると笑い声を立てて喜びます。
確かに、これが1番でしょう。

「興味の原理」

初めてのものを見せると
すごい興味を持ちます。
大人から見るとつまらないものでも興味津津です。
孫の今一番の関心は自動販売機のコインの戻りです。
手を入れて取り出すのが楽しみのようです。

しかし、同じことがそんなに続きません。
7. の「変化の原理」を実践しなければなりません。

「許容の原理」が有効かどうかは分かりません。
今のところ叱ることがほとんどありませんから。

ダメということについては、
（たとえばボールペンとかライターとか危ない物を持つ）
分かってきて、そういうものを掴もうとするときには
周りの大人の顔を窺います。

「賞賛の原理」は動物すべてに有効な原理でしょう。
「よくできたね」とほめると、またまたトライします。
「豚もおだてりや木に登る」
というジョークがあるくらいですから。

「自信の原理」は、賞賛の原理の延長です。

「予見の原理」は、
意味が難しく事例の紹介がありました。
「こうしていると次はこうだな」と先を予見してあげる、
ということのようです。

我が孫の場合は、
なぜか眠くなると耳に手をやり、
次いで頭に手を持っていきます。
そうしたら寝る準備をする、ということになります。

「集中の原理」

孫も、ここ一番という時には頑張らせます。
階段を一人で上がるようになってきましたが、
ここぞという時には手を貸さずにハッパをかけ
最後まで上がるようにして達成感を味あわせませす。
（親たちは途中で手を貸したがりませす）

「共在の原理」

カギっ子の精神的大成は難しいのでしょうか。
孫はわけがあつて
週日の昼間は保育所に預けていますが、
共在は保育所のお姉さんでもよいようです。

「体感の原理」

これは論を俟ちませせん。
育児は授乳から始まるのですから。

今、孫の朝の散歩をしていて
気がついたことがあります。
それは、見えるものより音に敏感だということです。

大人が聞こえていない遠くの足音とか車の音に
気がついてそちらを向くのです。
動くものに関心があるということも言えるでしょうが。

胎児の時は音だけですから、
音に敏感なのだろうと納得しています。

感じる順番は
体感、音、絵・画像、なのでしょう。

絵本を読んであげる時は
ワンワン、メー、ウオー、あら、とかの音を入れると
一所懸命に見ますね。

ところで、この原理はビジネスではどうでしょうか。

興味の原理
賞賛の原理
自信の原理
変化の原理
集中の原理

は、ビジネスでの人の活性化や能力向上での原理
として一般的です。

「許容の原理」は、
「叱らない」ではなく、ダメなことは教える・指導する
はもっと必要でしょう。
現在は、社会全般が「ダメ」と言わなくなっています。
「昔」はきちんと家庭でも学校でも社会でも
「ダメはダメ」と教えていましたね。

私はこのブログでもときどきご紹介していますように
「ダメはダメ」と言うように気をつけています。

「活動の原理」はどうでしょうか。

ビジネスでは肉体的な一体感やスキンシップは
問題でしょうから、
以下のようになるのではないのでしょうか。

それは、
一緒に汗を流す
一緒に苦勞をして一体感を醸成する
ということでしょう。

「上から目線」で指示をするだけでは
人の心は動かさません。
アメリカ型のマネージャはその点失格です。

この「活動の原理」が一番めにあるところが
この10原理のミソです。

幼児の指導原理は人間の根源的本質を
突いているはずで、
それは大人になっても変わらないでしょう。

それを外しているアメリカ流では
人の心を掴むことは難しいと思います。

この「活動の原理」重視は、
日本型マネジメントが
グローバル競争でも勝てる点です。

成功している日本の創業者は
みなこの点の上手な人です。

この10原理は、
いろいろな面でたいへん勉強になりました。

■日本企業の針路 野中先生の暗黙知は？
ご存じ「暗黙知」「現場力」の大先生のご託宣集の紹介です。
「なるほど、なるほど」ですが、敢えて突っ込んでみました。
http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_31.html

野中郁次郎先生と遠藤功教授の書かれた
「日本企業にいま大切なこと」を読みました。

その目次をご紹介しますが、
どの項目も「なるほど、そのとおりだ」というものが多く、

たいへん示唆に富んだ「教科書」です。

序章 日本の経営者は「実践知のリーダーである」

第1部 成功している世界企業は「アメリカ型」ではない

第1章 リーマン・ショックと大震災で何が変わったか

- ・ 日本企業にはコモングッドの精神がもともと宿っている
- ・ いまこそ「エコノミックアニマル」に立ち戻れ

第2章 横文字思考の“毒”

- ・ コンプライアンスや数字から知恵や勇気は生まれない
- ・ 情緒的な国でどこが悪い

第3章 傷ついた日本の「暗黙知」と「現場力」

- ・ イノベーションは平凡な日常からしか生まれない
- ・ 愚直なまでに「質」を迫及する現場を取り戻せ

第2部 海外に売り込める日本の「強み」

第4章 ムダが多いはずの「総合力」が生きる時代

- ・ 「ぶら下がり」社員を海外に送り込め
- ・ 「ガラパゴス」こそ日本の「際立ち」の象徴

第5章 世界に注目される共同体経営

- ・ 日本企業の価値観にいまになって欧米が近づいてきた
- ・ モノや技術だけではなく「価値観」を売れ

第6章 優秀な個を結集する「チーム力」

- ・ モノづくりに“身体性”を取り戻せ
- ・ 「日本的なもの」を素直に誇れる20代を活用せよ

第3部 スティーブ・ジョブズに学ぶ「日本型」リーダーシップ

第7章 意思決定のスピードをいかに上げるか

- ・ 社員をその気にさせる「大ボラ」を吹け
- ・ 「職場」という単位に回帰せよ

第8章 優秀なミドルをどう育てるか

- ・ リーダーは自分の夢や失敗談を語れ
- ・ 現場が元気な会社は「ノリ」がいい

第9章 賢慮型リーダーの条件

- ・ 「ディシジョン」ではなく「ジャッジメント」
- ・ 危機に直面したときの行動で企業の品格は決まる

終章 リーダーはつねに現場とともにあれ

- ・ 「中央」と「現場」の鮮烈なコントラスト
- ・ 「平時の現場力」の重要性
- ・ 「中央」のエゴを押しつけるな
- ・ いまこそ企業は「社会的責任」を果たすべき
- ・ 日本にカリスマ的リーダーは要らない

この中で、特に賛成なのは、

第2章 横文字思考の“毒”

- ・ コンプライアンスや数字から知恵や勇気は生まれない
- ・ 情緒的な国でどこが悪い

第9章 賢慮型リーダーの条件

- ・ 「ディシジョン」ではなく「ジャッジメント」
- ・ 危機に直面したときの行動で企業の品格は決まる

あたりです。

ここは日本なのだから

「カタカナ語ではなく日本語を使おう」という考えは、

1984年にシステム分析方法論MIND-SAをリリースしたときからの私の主張です。
残念ながら、「システム」は「脱カタカナ語」ができない数少ないものの一つでした。

日本は現場重視で現場が強い、
現場の暗黙知は大きな価値がある、
という野中先生の主張には大賛成です。

ですが、現場力だけで日本は勝っていける、
「カリスマ的リーダーは要らない」という主張には賛成しかねます。

近代日本が大きな力を発揮した2回は、
ご承知のように明治維新と敗戦後です。

このときはカリスマ的な強いリーダーはいませんでした。
それでも多くの国民あるいは国民一人一人の努力で
偉業を成し遂げられたのは、
国の目標がはっきりしていたからです。
いずれもお手本になる欧米が目標でした。
明確な目標が示されれば「現場」は強いのです。

これからはどうでしょうか。
未知の世界へ足を踏み出していくのです。
少子高齢化社会の先頭を切るトップランナです。
先を指し示すリーダーが必要です。

たまたま2011年10月の日経新聞の
「私の履歴書」は東レの社長をされた前田勝之助氏です。
氏は、若い時からユニークな発想をする方で、
炭素繊維など
数々の特許を取られるくらいの技術者でありながら
経営も立派にやられたことが
この「履歴書」で分かります。

この方はカリスマ的なリーダーです。
労働組合からCEOへの復帰を要請されたくらいですから。

なお、10月31日の「私の履歴書」最終号の見出しには、
「決断ではなく判断 私の信条」という副題がついていました。
前掲の野中先生の「ディシジョン」ではなく「ジャッジメント」
に符合するものです。
どちらが元祖か分かりませんが、この説には私も全く同感です。

ビルゲイツ、スティーブ・ジョブズ、グーグルのラリー・ページ、
Facebookのマーク・ザッカーバーグのような
知的なカリスマ性あるリーダーなしで、
企業はこれからのビジネス界で
リーダーシップを取っていくことができるのでしょうか。

日本のビジネス界の創業リーダーは
楽天の三木谷浩史社長、ワタミの渡邊美樹会長、
ユニクロの柳井正社長ですが、
皆様強烈な個性のカリスマ経営者です。

軽自動車業界で気を吐いている
スズキの鈴木修社長だってカリスマです。

現場力だけでは、
世界の下請け工場に甘んじることになるでしょう。

当書の最後の一言「日本にカリスマ的リーダーは要らない」は現場を重視するあまりの勇み足ですね。

■ トップの強い意志と現場力
現場力だけでは、改革は進まないということを、
二つの事例で解説いたしました。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_9709.html

別稿の「日本企業の針路」 野中先生の暗黙知は?」では、これからの日本企業に求められるものは現場力だけでなく、トップの強いリーダーシップも必要であることを述べましたがその例をご紹介します。

「保守コストの半減を目指す
ソフトウェア保守業務のプロセス改善」と題した研修が
J U A S (日本情報システム・ユーザ協会) 主催で
行われました。

総論を上野則男が担当し、
事例をヤマハモーターソリューション(株)殿と
(株)野村総合研究所殿にお願いしました。

前者は、
I T I L (I T インフラストラクチャ・ライブラリ、
イギリス政府が策定した、コンピュータシステムの運用・管理業務に関する体系的な
ガイドライン) / I S O 2 0 0 0 0 を活用して
ソフトウェア保守業務を活性化しているという事例、

後者は、
2 0 0 5 年から「エンハンス業務革新推進室」を設置し、
ソフトウェア保守業務の改善・改革に取り組んでこられ
大きな成果を上げられた事例です。

どちらもご担当の方の大変なご努力で実現している成果
であることは間違いないのですが、
その裏には、両社とも社長の強い意志があるのです。

前者の渡辺卓也社長は、
生え抜きのシステムやさんですが、
情報子会社として同社が果たすべきミッションは何か、
そのためには何をしなければならないかを
常時考えておられ、
各種の仕組み整備を精力的に進めておられます。

I T I L による体制整備もその一環です。
言うなれば
渡辺社長の意志で進めておられることなのです。

後者の場合、
「エンハンス業務革新推進室」
を作る判断をされたのは、当時の藤沼彰久社長でした。
藤沼氏(現会長)は、野村総研初のプロバ社長です。
現場をよくご存じて、
業務ウエートの高い保守業務を
何とかしなければならぬと判断されたのです。

研修当日、受講者から
「自分たちも改善や整備を一所懸命やっているが、
なかなか現場が動いてくれない。

どうすればよいのだろうか」
という質問が出されていました。

両社の講演者は、自分たちが努力・工夫している方法を説明されていました。

私は、
「現場を動かすために必要なのは
トップのリーダーシップです。
信頼できるトップが本気でやるつもりだ、
ということについては現場も従います。
トップがその気でないことはうまくいきません」
と申しあげました。

改革は、
トップ、スタッフ、ラインがその気にならなければ
成功しないのです。
現場は変わりたくない、変えたくないが本心ですからね。

■西大井駅近く横須賀線事故の対応

我が家の近くの事故にからんで「一言」です。
http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_5155.html

10月24日午後7時50分頃、
掘割状になっている横須賀線の線路にタクシーが落ちて
折から走ってきた横須賀線下りの列車と
衝突した事故がありました。

我が家の近くで
私のジョギングコースの中でもありますので
21時前に野次馬根性で行ってみました。

他人のことは言えませんが
野次馬がたくさん来て線路にかかっている道路の橋や
道路から下を覗き込んでいました。

私は現場がよく見えませんでしたので、
「どうしたのですか」と周りの人に聞いてみました。
「タクシーがガードレールを突き破って線路に落ちた」
ということは確からしいのですが、
「走ってきた電車の屋根でバウンドして反対車線に落ちた」
と言う人もいました。これは「誤報」でした。
デマはこうして伝わるのですね。

でも21時過ぎの時点では
乗客は閉じ込められたままでした。
帰宅して22時ころのテレビを見ましたら
「先ほどから乗客は電車から降ろされて
400メートルくらい後ろの西大井駅に向かって歩いている」
と伝えていました。

なんと1時間半以上、
乗客は閉じ込められていたのです！！

よくある車両故障とかではなく、
線路に自動車が落ちているのです。
すぐに復旧できるわけがないではないですか。
掘割状になっている線路から
自動車を引き上げなければならないのですから。

直ちに、乗客の避難誘導をすべきだったでしょう。
こういうときの判断は誰がするか
ということは決まっているはずです。

なぜ判断できなかったのでしょうか。

危機対応マニュアルの不備か、現場対応力の不備かです。
(私は後者だったのではないかと推論します。
気がきく車掌は少ないですものね)

こういう場合の事故対応原則(事故を処理する「目的・ねらい」)
の優先順位は、おそらくこうなっているでしょう。

1. 負傷者等の救済
2. 乗客の安全確保
3. 乗客の避難誘導(お客様重視)

ですから、
車掌はまず指令本部への連絡と109番通報はしたでしょう。
次いで、
横須賀線の列車すべてが走っていないことの確認がとれたら
(線路を歩くことの安全の確保)、
直ちに、線路に下ろす判断をすべきだったのです。

日本の危機対応能力の低い事例がまた出てしまいました。

それにしても、乗客の皆様は我慢強いですね。
私だったら、車掌に
「すぐに下ろしてくれ。じきに復旧するわけないでしょう！」
と言ったでしょう。

■ 禿頭は男性的？

愚息の強い意志の紹介？です。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_5755.html

家族の話題で申し訳ありませんが、愚息はNHKのスポーツアナです。

上野速人でインターネットを検索したらウィキペディアに載っていました。
エーッ、コヤツ、親父を越えているな、と思いました。

ついでに、他のインターネット情報も見ていたら、
こういうのも出てきました。

YAHOO知恵袋というところに、
「NHKのアナウンサー、上野速人って、カッコ良いですよ？」
という書き込みに対して、以下の回答書き込みがありました。

「スポーツ担当の方ですよ！個人的には好感度高いです。
さすがNHKのアナウンサーだけあってしっかりしていると思います！
ただ、格好良いと言われると微妙な気が でも堂々として良いかも！」
(以下省略)

これは何を言っているのかと言うと、髪が薄いのに、隠す風がないということなのです。

私は、アナウンサーで人の目に触れるのだから、「カツラを使えよ」と
再三再四アドバイスしているのですが、意に介しません。

これは考え方だからしかたがないな、と諦めていました。

そうしましたら、最近のテレビ番組でアメリカでは、禿頭は恥ずかしいことではなく
男性的でモテルのだと言っていました。確かにそういう面はあります。

その例として、ユール・プリンナ、ショーン・コネリなどが引き合いに出されていました。
確かに彼らは、精力的で魅力的です。

アメリカは目的思考、「別にいいじゃないか。頭の見かけで勝負しているわけではない」
と開き直りで堂々としています。

それに対して、日本は周りの評価を気にする集団指向ですから見かけを取り繕って
バーコード状態にしたりします。それこそみっともないのです。

ご存じでしょうが、頭髪は女性ホルモンがコントロールしています。

男性ホルモンが強い人は「薄い」のです。

私の髪は濃く黒いですが、「髪が欲しい人は女性ホルモンをもらいなさい」と言っています。??

■「上野則男のブログ」ランキング

アクセスランキングが出ていましたのでご紹介します。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_7688.html

この「上野則男のブログ」は
2010年4月から始めました。この10月までで157編になります。
その前はブログではなく「上野則男のメルマガ」として配信しておりました。
上野則男のメルマガの時代は、57編でした。
合計214編です。
「継続は力なり」ですね。

私のブログのアシスタント近藤千穂が、アクセス数が分かるということで、
見てみました。ランキングは以下のとおりでした。

1. 福島原発の状況、これが本当！（2011/3/22） 1,548 ページビュー
2. 「低放射線量は有益である」という証明（2011/5/14） 947 ページビュー
3. 事業仕分けでIPAのIT人材育成事業が槍玉に！（2010/11/23） 486 ページビュー
4. 「システム障害はなぜ2度起きたか」（2011/9/17） 441 ページビュー
5. 福島原発事故から学ぶこと（2011/3/31） 425 ページビュー

3. を除いては、順序は別として、私の力の入れているテーマがランクされています。

アクセスの絶対数が多いか少ないかは不問にして分かることがあります。ページビューの件数は、
最後まで読んでくださったかどうかではありません。「面白かった」「有意義だった」
の人気投票ではないのです。

「開いてみた」方の数なのです。開ける前は、面白いかどうかは分かりません。当然のことですが、
タイトルで判断して開けられるのです。

したがって、「上野則男のブログ」の読者は、「どういうテーマに関心がおありなのか」
ということがこのランキングで分かります。

このランキングは、社会的関心の大きさをも反映していると思われます。
「事業仕分けでIPAのIT人材育成事業が槍玉に！」は、ほかのテーマと並ぶ重要性があるとは思えません。
このブログの読者は、システム関係者が多いことの結果でしょう。

やはり、ご自分のお仕事に関係が深いテーマは読まれるということです。

「システム障害はなぜ2度起きたか」が最近の掲載であるにもかかわらず、
他に伍しているのは、最近のシステム業界の状況を反映していると思われます。

私としてはこの編は力作だったと思いますが、先に述べましたように、
ページビュー数は、良かったという感想数ではありませんので・・

東日本大震災以来、BCP（事業継続計画）を含めて安全・安心に
強い関心が寄せられていることの結果でしょう。

以上から、私が学んだことは、

1. 見ていただくには、タイトルの付け方が非常に重要
2. タイトルに、皆様の関心事に直結する「キーワード」が含まれていなければならない
3. 奇をてらうタイトルをつけてもあまり見ていただけない

ということでした。

これは、自社のホームページにお客様を誘導する際の原則と同じだったのです。

■私の趣味「银杏採り」のご紹介

10年くらい更新していたものを公開することにしました。

ギンナンに関心のない方には全く意味のないレポートです。

http://uenorio.blogspot.com/2011/10/blog-post_6221.html

以下の長文は、2000年から書き出したものです。
これだけ、続いているのですから

趣味と言えるのでしょうか。
ただし、残念ながら期間限定の趣味です。
でもこれが、今は唯一の趣味です。

私は、秋になるとギンナン採りに夢中になる。
2006年は、9月・10月で1万個くらい採ったと思う。
2007年は大不作で3000個程度しか採れなかった。
1年おき豊作説を言う人もいる。
2008年は豊作で8千個以上になっと思う。
2009年は、不作で私の「漁場」でならない木が多く
せいぜい5000個どまりだった。
2010年は、猛暑のせいか一般には不作だったが、
たまたま私は7000個は採れたように思う。

2011年は異変があった。
それは9月21日に、
何年ぶりの大型台風の関東直撃があったこと。
これでかなりの「未熟児」が落ちてしまった。
それでもその「未熟児」を2千個ほども採って、
未だにタンクに保存している。

その後、何度か風雨があり採り頃があった。
台風であらかた落ちてしまったかと思っただが、
かなりの「強い児」が残っていたことになる。

だが、例年の「採集者」がほとんど姿を見せなかった。
おそらくあの台風で「今年のギンナンは終わった」
と諦めてしまったのであろう。
おかげで、
私の今年の収量はほぼ例年並みの6—7千個だった。

昨年まで採れていた樹が今年はまったくならない、
逆に昨年まではパツとしなかった樹が今年は豊作ということもあり、
また、昨年まで大きな実がなっていたのが
今年は小さいのばかりで対象にならない、
などその状況はよく分らない。

昨年まで大きな実の木が小さな実になってしまったのを
不思議に思っていたら、
誰かが「数がとても多いから実が小さい」と言われた。
なるほど1本の木で補給できる栄養は限りがあるから
実が多くなれば小さくなるのだろう。
しかしなぜそうなるかはやはり分らない。

よく「銀杏を拾うのですか」と聞かれる。
私は「拾うのではない。採るのです」と答えることにしている。
物理的には「拾う」動作をするが、
「乞食」のように拾うわけではない。
狩猟採集民族のように「採っている」のだ、と説明する。

まさに、採集民族のように、どこに行けば採れるかを考えて行動し、
うまくいけば大量に採れるし、駄目だとほとんどありつけない。
拾うなどという生易しいものではないのである。

大量に採れるのは、雨や風の後である。
銀杏は雨より風に弱いらしい。
嵐の後に出かけると、地面一面が「真っ赤」になるほど落ちている。
実際には赤ではなく、オレンジ色である。
残念ながら「真っオレンジ」という言葉はない。

そういう時は、1本の大木から千の単位の銀杏が落ちる。
1シーズンで、そういうときが何回かあるので、
おそらく1本の木に1万個以上の銀杏がなるのであろう。

因みに、銀杏はいちようの実ではなく種である。
いちようは雌雄別株であり、雌株にしか銀杏はならない。
臭い部分を含めて種子であり、
堅い殻は中種皮なのだそうである。
中国原産で、世界には日本経由で広がったらしい。

我が家では、家族全員が銀杏嫌いである。
匂いで吐き気がするというのである。
そこで毎年、家族にばれないようにこっそり処理していた。
匂いを残さないで処理するのは至難である。

ところが、2008年にオープンになった。
銀杏を好きになってくれたわけではない。
「物物交換」の対象になったのである。
家内が入っているいくつかのサークルで、仲よし仲間が、
お互いにどこかへ行くとお土産を買ってくるようになっている。

我が家は、最近どこへも行かないので、
貰いっ放しで具合が悪かったらしい。
一度、無理やり銀杏を持たせたら、びっくりしたこと、
多くの「仲間」から大好評だったのである。
それ以来、わが銀杏たちは何度か活躍することになった。

銀杏は、焼き鳥屋や料亭でも食べることができるが、
先日発見をしたことがある。
それはそういうところでは、殻を割ってから煮たり焼いたりする。
お客に手間をかけさせないためである。

これだと、銀杏の旨さが半減する。
殻のまま焼くと、ポーンと勢いよくはじける。
これは、殻の中に閉じ込められている水分が気化して
破裂を起こすのである。
はじけるまでは高圧がかかるので、中の質が変わる。
実(み)にモチモチ感がでてくる。歯応えがかなり違う。
このモチモチした銀杏は店では食べられないのである。
私の主たる採集場所は、近所の大田区の公園である。
そこは9時に開門する。
先日、嵐の後の「大獵」のときに、興味深い経験をした。

一つめは、欲しいものがいくらでも得られる状況だと、
競争相手は仲間になる、ということである。
獲物が少ないときは、
開門と同時に我先にイチョウの下に駆けつけて、
脇目もふらずに1個でも多く採ろうと必死になる。
人のことなど見向きもしないでただただ地面を見ている。
他の人間は邪魔者なのである。

ところが、採りきれないほどの獲物があると態度が変わってくる。
お互い仲間意識で情報交換しながらゆったり採るのである。
そのとき一緒だった一人の「おばさん」は、
私の袋が一杯になっているのを見ると
「私はすぐ近くだから袋を持ってきてあげますよ」と言って、
大きなビニール袋を持って来てくれたのである。

そしたら、もう一人の「おばさん」
(実は二人ともほとんどお婆さんである)は、
「私はもういいから、あそこに集めたの持っていきなさい」
と自分が熊手で集めたのを譲ってくれたのである。

情報サービス業界はこれまで、
お互い、競争意識より仲間意識が強かったのは、
環境の成せる技で、これからはどうなのであろうか。
(2005年ころの記述?)

「おばさん」からの2番目の気付きは、こうである。

たまたまその時は、その採集場（木が3本）のところには、私とそのおばさん二人しかいなかった。
私が女性でも、おばさん達はここまで親切にしてくれただろうか？と考えた。どうも違うような気がする。
何歳になっても男女の区別はあるのではないかと思った。

3番目は、銀杏の剥きかたを教わったことである。
私も何年か銀杏採りをしていて、剥きかたも試行錯誤している。
この方法しかないと思っていた。

ところが、そのおばさんは二人ともこうしていると言うのである。
それは、大きくて丈夫なビニール袋に銀杏を入れて、長靴で踏む。
そうすると、柔らかい種皮の外層と堅い種皮（食べる部分）が分離する。
これを選別する、のだそうだ。

それを聞いて、結局のところ選別はしなければならないではないか、その選別に手間がかかるのだ、と思ったが、念のためその方法をやって見た。

ただし、長靴ではなく運動靴であったが。
そうしたら、たしかに作業効率がよいのである。
自分の方法が一番だと思って
他人の意見に耳を貸そうとしないのは駄目だと実感した。

この後、やはり「おばさんの長靴」がよいということが分かった。
私の体重で、底の堅い運動靴で銀杏を踏むと
堅い種皮まで割れてしまうものがある、のである。

そのようにして「生活の知恵」は継承されていったのであろう、
と思った次第である。

その時、もう一つ教わった。
たくさん採ったら冷凍保存しておくのだそうである。
銀杏は、乾燥してしまえば保存は効くが、
そのまま保存するとさらに乾燥して堅くなってしまう。
冷凍は、保存の常識であるが今まで気が付かなかったのである。

ここで、銀杏が美味しく食べられるまでのプロセスを整理するとこうなる。

第1ステップ 採る

どこにいつ行けば良い収穫が得られるかを知るのが重要で
「採る」作業自体は単純作業である。
近所の神社・お寺・学校にいちょうの木がある。

開門時間がない場所では早い者勝ちである。
タッチの差で全くありつけない時もある。
100個単位で採れた時は気分が良い。
普通の日には、出勤前のジョギングの際に採るので、
そんなに早くは行けない。
9時開門の公園の土曜・日曜が主な収穫対象となる。

学校は最近、勝手に入れなくなってしまった。
道路にはみ出して落ちているのを採るしかない。
事件が頻発したせいである。
住みにくい世の中になっていくことを実感させられる。

不思議なもので、公園で一度に千個以上採っても、
近くの神社で毎日10個・20個採ることもやめない。
見つけ出す楽しみがあるようだ。

「実」は、木によって大小がある。
大小など種類による味の差はまだよく分からない。

美味しいかどうかは、その後の処理の影響が大きい。

2010年に、毎年同じ方法で採っていた採集方法で進展があった。

以下は私のブログからの転載です。今年の中盤から蘇峰公園で一緒になるご婦人がいました。その人は、右手に昔の火鉢に使うようなバネで開閉するハサミを持ち、左手に直径20センチくらいのお皿状の器を持っていてそれに一つずつ入れていくのです。「かぶれるのが嫌で手袋を使わないのだろうな、これでは遅くて競争に勝てないだろう」と思って見ていました。するとなんとその動きが早いのです。1個収穫するスピードが、どうも我々より早そうです。分析好きの私としてはなぜだろう、と考えました。そうすると分かりました。ハサミではさむ技術は訓練で早くなっているのでしょうか。挟んで器に持っていくまでは手の動きの早さが勝負でそれは若さの関数でしょう。ところがそこから先がお皿方式が早いのです。我々は食品等のポリ袋を使っています。左手にその袋をぶら下げていますが採った銀杏をその袋に入れるには袋の口の隙間に押し入れなければなりません。これが意外に手間取っています。右手は単純な地面と袋との往復運動をしているようですが、袋に入れる段階に若干の停滞時間があるのです。単位時間当たりの収穫量を増やすという目的のためには袋などの器に入れる段階を改善すべきだということなのです。そのご婦人はそのことが分かってされていたかどうか定かではありませんが、大したものです。私は、その次から我が家の台所にあった直径30センチほどの竹で編んだザルを使いだしました。たしかに早いし、袋に入れるときのストレスがなく大変スムーズに採集活動をすることができるようになりました。別の男性に「新兵器を持ってきましたね」と言われました。

第2ステップ 剥く

これが、最も大変な作業である。銀杏が好きな人でも、あの臭い匂いはたまらないという人は多い。そういう人は採りに行かない。「ウンコ」の匂いだという。柔らかい部分を剥いで干しているときの匂いは1種のチーズの匂いである。

臭い外層は強い酸等で、かぶれを起こしやすい。私も以前、傷口に付くことによってかぶれを起こした。一旦ひどいかぶれを起こすと抗体ができて、かぶれる体質になってしまうのだという。私がかかった皮膚科の医者は、「漆と同成分だ」と言っていた。かぶれないように手袋をして作業をする。

9月の初め頃は、まだ熟れていないので何日か水に漬けて柔らかくする。それから剥きにかかる。大雑把に分離した後で水で洗う。私は台所用洗剤も使っている。完全に殻からオレンジ色の物体を払拭するのはなかなか骨がおれる。この物体が残っていると乾燥の際に臭くてたまらないのである。そこで、一粒ずつ丁寧に剥かなければならない。1000個を処理するのに準備・後作業含め2時間程度かかる。

昔の人は、土に埋めて周りが腐ったら取り出したらしい。この方法をやって見たが、ずいぶん日数がかかる。どちらにしても、きれいに洗わなければならない。2007年から少し改善して次の方法で行っている。大きなポリエチのゴミ袋に入れて足で踏んで柔らかい部分と堅い部分を分離する。ここまでは従来と同じである。このあと、大きなバケツに入れて水を満たす。水をゆっくりこぼすと、

柔らかい部分は浮いているので水と一緒に流れて出てしまう。
これを数回繰り返すと堅い部分だけが残る。
こうすると一粒ずつ手を掛ける必要がなくなる。
かなり楽になった。
一粒ずつ手をかけないので、
割れているとかの不良品が混じってしまう危険性がある。
それは乾燥段階で選別する。

第3ステップ 乾燥する

以前は徹底的に乾燥した方がよいのだと思っていた。
しかし、前述のように焼いたときの水蒸気圧で味が良くなる
のだとすると、あまり乾燥させない方がよいことになる。

それではなぜ乾燥させるかというのと、
乾燥すると臭みが無くなるからなのであろう。
それと、乾燥不十分だと、中の薄皮が実からはがれにくいようだ。
したがって、そういう範囲で乾燥をやめて、
それ以上乾燥が進まないように保存する必要がある。
乾燥は天気の良い日で2日程度である。

2011年に、皮剥きをしていると、通りがかったオバサマが、
「直射日光で乾かさない方がいいよ。中の実まで乾燥してしまうから」
と言われた。
そこで今年はその説に従って乾燥は1日にだけにすることにした。
どちらが美味しいのでしょうか。

ある年、乾燥途中で鼠に横取りされた。
鼠も好物らしい。部屋の中にたびたび殻が落ちているのである。
しばらく何故だか分からなかったが、ある時正体を現した。
びっくりした。家内は大騒ぎだった。
窓が開いている時に入ってきてしばらく居座っていたらしい。
もう銀杏は金輪際止めにしてくれと言われた。

第4ステップ 保存する

すぐ食べるのが、最も美味しいのはここでも当てはまる。
しかし、そうもいかない。
そこで保存せざるを得ない。
長期でなければ、ビニール袋で密閉しておくのが乾燥を防ぎ、
よいようである。
長期にこうして保存するとかびてしまう。
長期はやはり冷凍ということになる。
先日、冷凍しておいたのを冷凍庫から出して数日置いていたら、
美しいグリーンの艶が無くなっていった。
「冷凍庫から出したらすぐに食べる」は、
腐らないような食品でも当てはまるのである。

第5ステップ 焼く

専用の銀杏焼き網（蓋が付いている）が無い場合は、
フライパン等で蓋をして焼く。
蓋をしていないと、はじけた銀杏が飛んでくる。
その勢いは、軽い鍋蓋を飛ばすくらいの力がある。
気を付けなければならない。

はじけが3回か4回起きたら、火から下ろす。
全部がはじけているわけではないが、
十分焼けた状態になっているはずである。

紙封筒に入れて電子レンジで焼く方法（注）も紹介されている。

手軽でよいが、
やはり、焦げ目の香ばしさが味わえないのは物足りない。
（注）封筒に入れる前に、少し水につけておく
（殻の密閉状態をよくし、中にも水分を入れるためであろう）。
強い封筒に入れてレンジに入れる（加熱）。
封筒の中で銀杏がはじける。3、4度大きくはじけたらとりだす。
時間ではなく、このタイミングで計る。
以下も2010年の成果である。たまたま、レンジで少し焼き過ぎたことがあった。
そうすると先に弾けたものが焦げて硬くなっていた。
なんと、これが別の風味があって美味しい。
まさに怪我の功名である。
したがって、あまり3回だ4回だと言わず、
かなり弾けてから下ろすという方法でもよいようだ。
この場合によいのは、
ほとんどが弾けていて割る手間が省けるということもある。

第6ステップ 食べる

よい状態でステップを進めてきた場合は、エメラルドグリーンのような素晴らしい色艶のモチモチ感あふれる銀杏が食べられるはずである。

銀杏の殻は硬いので、割る道具が必要である。ペンチのような道具は面倒である。ビール瓶のような飲料水の瓶の底で割るのが簡単である。ワインの瓶の底は凹んでいるので適さない。銀杏の成分は、糖質35%、蛋白質5%、脂質2%、カロチン、ビタミンCを多く含んでいるそうである。きつい栄養分を含んでいるので5粒を限度にするのがよいとか、食べ過ぎると鼻血が出るとか言われている。

最後に、私の銀杏採りの「目的・ねらい」（私のビジネスのネタ）を整理しておくとうなります。ご参考までに。

【目的】

1. 採るプロセスを楽しむ。（今日はいくつ採れるか想定する、探す、採る）
2. たくさん採る。

【ねらい】

（主に「たくさん採る」のねらいです）

1. 人に上げて喜んでいただく。
2. 人に上げて交流を深める。
3. 自分で食べる（ほんの少ししか食べない）

【弊社からのお知らせ 目次および開催日程】
<http://www.newspt.co.jp/data/schedule.html>

- ▼ 2011年度S L C M研究会（システム・ライフサイクル・マネジメント研究会）
～ソフトウェア保守業務改革の実践～・・・募集継続中
- ▼ 保守業務の革新研究トップセミナー
～保守コストの半減を目指して～・・・11/7
- ▼ システム分析・企画コース・・・11/17-18
- ▼ 第43期“超”プロマネ養成塾・・・2012/1/14 スタート

-
- ▼ 2011年度S L C M研究会（システム・ライフサイクル・マネジメント研究会）
◆ソフトウェア保守業務改革の実践研究会（通称：保守研究会）

9月15日からスタートいたしました。
途中入会も承っております。
研究会内容の詳細は是非お問い合わせください。

今後の開催日程：2011年11月17日、2012年1月19日、3月15日
* いずれも木曜日の開催です。
各回とも13:30～18:30まで、その後情報交換会を実施します。

http://www.newspt.co.jp/data/slcm/hosyu_ken.html

対象者：ソフトウェア保守業務の改善・改革をミッションとしておられる方、ご関心のある方など、是非ご参加ください。
これまでの研究会へのご参加は不問です。

参加費：お1人参加：189,000円
お2人参加：241,500円（いずれも税込）
* 途中入会の場合の参加費用はお問い合わせください。

▼ 保守業務の革新研究セミナー
～保守コストの半減を目指して～ 11/7

◆11月7日（月）14:00～19:00

<http://www.newspt.co.jp/data/semina/tops.html>

対象者：情報システム・IT部門長殿、
およびそのご推薦の方で保守業務の改善にご関心のある方
参加費：無料

▼ 第16回 システム分析・企画コース 11/17-18

◆2011年 11月17日（木）～18日（金）

<http://www.newspt.co.jp/data/kensyu/open/f11.html>

内 容：システムの問題分析からシステム企画提案書作成に至る各種手法
対象者：職務経験3年以上の方、その他の制限はありません。
時 間：9:30～18:00
参加費：81,900円（テキスト代、・e-learning・税込み）

▼ 第43期“超”プロマネ養成塾 2012/1/14（土）スタート

<http://www.newspt.co.jp/data/epm/epm.html>

◆99年から開催している「“超”プロマネ養成研修」を“塾”と改称し実施しています。
実績ある講師に指導いただき、好評をいただいております。

◆“超”プロマネ養成研修は、開催当時から、一般の社員研修とは趣を異にし、
各社の代表者にお集まりいただき英才教育を施し、その方をてこにして各社の
プロマネ力の底上げを図っていただくという趣旨で行ってまいりました。

◆“超”プロマネ養成研修 改め、“超”プロマネ養成塾では、上記の
趣旨のもと、半年間という長期に亘る期間の中で、単なる技術・テクニク
の追求ではなく、人間的な魅力の醸成をも目指しております。

単なる研修会ではなく
メンバが一丸となって成果の獲得を目指す集団となっており、
それを講師陣が後押ししてくださるところも大きな特徴です。

* 詳細はぜひ、上記URLからご覧ください。

◆現在、来年1月開講の第43期の参加申込を承っております。
期間は2012/1/14から2012/7/21（土）までの半年間で、
計9講座を実施いたします。

◆対象者：プロマネの基礎能力を身につけ、本格的プロマネを目指す方

◆受講料：お一人367,500円（税込み）。

* 今回が初めてご参加の場合は特別割引をさせていただきます。
何なりとお問合せください。

お申し込み・お問い合わせにつきましては本メールへの返信あるいは
弊社HPよりお願いいたします。

↓
<http://www.newspt.co.jp/data/schedule.html>

☆☆アドレス変更・送信停止等は本メールへの返信にてお願いします☆☆

=====
システム企画研修株式会社
Tel : 03-5695-3130、Fax : 03-5695-3131
〒103-0001 中央区日本橋小伝馬町16-2 東事協ビル2F
mind-pc@newspt.co.jp
<http://www.newspt.co.jp>
=====